# 知床の森から

平成8年2月
第41号

エゾタヌキ


北見営林支局 ☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター ☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160 (食肉目イヌ科)


## 地球温暖化進行？ 流氷原の荒々しさもう過去のもの！

今年も流氷がやってきて、斜里海岸や知床半島のオホーツク沿岸は、すっかり流氷に埋められました。いま2月には珍しい好天続きで、力を取戻してきた陽光に眩っ白に輝いております。

「流氷が来るのは当り前」「流氷は春の使者」などと、春を恋う北国の人々は言います。でも一方で「昔の流氷はこんなもんじゃなかった」という声も聞かれます。

たしかに流氷は10年区切りで過去に逆上るほど圧倒的な迫力がありました。

次々に押し寄せる流氷で、氷原は氷が不規則に重なり合い、海岸線では5m以上の氷壁が続き、氷の隙間はくっきりと青く幻想的でした。こういう光景はたしかに過去のものとなりました。

氷原はかなり平坦になり、沖合に海が見え、海岸線に氷の壁はめったに見れません。近年のような暖かい気候が続けば、「21世紀にはもう流氷は来くなる」という危惧の声は説得力があります。しかし現実の流氷が北のロマンをけっして損なうものではなく、知床はいま流氷ツアーで賑わっています。

知床沿岸に押し寄せた流氷。

重なり合う氷塊…かつては見なれた風景だった。

## 絶希少植物のいま！

知床半島には、樹木を含め104 科819 種の植物が生育しているといわれます。また半島内の国立公園内には、自然公園法により採取規制の指定植物が、53科244 種生育しています。これらの種の中には当然希少種も含まれております。知床半島の自然環境下における野生植物の現状は、他の地域と相似関係にあるといえます。ただ開発行為の強い規制と、ヒグマを頂点とする野生のフィールドが、人間の安易な行動を拒み、結果として多くの植物を守っているのは事実です。

守られるべき多くの野生植物の中で、異彩を放つのはやはりラン科植物です。マニアにもっとも狙われるのもこの種です。知床における多くの草花から、このランを択んで考察を試みました。

知床半島における野生植物の系統だった調査と報告は、それほど昔ではありません。そしてその種の数も少なめです。ランが熱帯を中心に版図を拡げていった植物であることを考慮すれば、亜寒帯の知床では妥当な数でしょう。ただ未知の自然を多く残している知床では、今後さらに発見されうる可能性を秘めております。当センターでは『知床のラン』と題して、平成7年度北見営林支局業務研究発表会で披露しています。

知床半島のラン科植物

| 属・種名 | 知床半島の植物 絶滅 (絶滅 [illegible]) | 知床国立公園の指定植物 (指定) | 知床森林センター (専門員) |
|---|---|---|---|
| | | --指定種-- | |
| アオチドリ | | | ○ |
| アケボノシュスラン | ○ | ○ 希少 [illegible] | |
| アリドウシラン | ○ | | |
| ニッポチドリ | ○ | ○ ・ | ○ |
| ニッコビキ | ○ | | |
| キソチドリ | ○ | | |
| キンセイラン | ○ | | |
| コケイラン | | ○ ・ ・ ・ | |
| ササバギンラン | ○ | | |
| サルメンエビネ | | ○ ・ ・ ・ | ○ |
| サイハイラン | ○ | ○ ・ ・ ・ | ○ |
| サカネラン | ○ | ○ ・ ・ ・ | ○ |
| スズムシソウ | ○ | ○ ・ ・ ・ | ○ |
| トキソウ | | | |
| トケンラン | | | ○ |
| ネジバナ | | | ○ |
| ノビネチドリ (絶・D) | ○ | ○ ・ ・ | ○ |
| ハクサンチドリ | ○ | ○ ・ ・ | ○ |
| ヒメミヤマウズラ | ○ | ○ ・ ・ ・ | ○ |
| フタバラン | ○ | ○ ・ ・ | ○ |
| ホソバノキソチドリ | ○ | ○ ・ ・ | ○ |
| ミズトンボ | | | |
| ミヤマチドリ | | ○ ・ ・ | |
| 計 23 | 15 | 14 | 14 |

サイハイラン

ノビネチドリ

## で～んと巨木たち

軽小短薄の人間社会の埒外で、超然と存在する巨木。それも何本となく。見る人をして言葉を失わせる重厚な存在感。そんな大木が知床の森林ではまだ見られる。胸高直径が1メートルを超す木はもうそれ自体驚異である。

知床半島は地域的には辺境で、地理・気象や自然環境の制約があり、かつ保安林などの法的規制などで、他所と違い大木が残存する可能性は高かった。いまやここでは大木たちははるか昔の大木のように、天寿を全うできる。

胸高直径が1メートルを超すのは、ミズナラ・オヒョウニレが多いが、70cmぐらいまで直径を下げれば、トドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ・イチイの針葉樹、カツラ・ダケカバ・キハダ・ヤチダモ・セン（ハリギリ）・シナノキの広葉樹など目白押しで、すっかりうれしくなってしまう。自然大好き人間は、天然の森が創り出す空間と生態系の巧みなハーモニーに酔えるに違いない。こんな森が霧煙る深山に、というのではなく以外と近くにあるのです。大事にしたい知床、知ってほしい自然です。

（3月16日にこんな森をステージに、歩くスキーで自然ウオッチングのイベントが、当センター主催で開催されます。写真のオヒョウニレは胸高直径138 cmで、イベントコースの森にあります。）